

安全データシート

作成日：2011年06月08日

改訂日：2015年07月14日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名：流動パラフィン350#
製品コード：
化学物質等の名称：流動パラフィン
会社名：山桂産業株式会社
住所：大阪市中央区平野町1丁目8番3号
担当部署：
電話番号：06-6231-3277
FAX番号：06-6201-3187
緊急時の電話番号：06-6231-3277 (土日祝を除く 9:00~17:00)
メールアドレス：info@yamakei.jp
製造会社名：山桂産業株式会社

推奨用途及び使用上の制限：食品添加物、化粧品、合成樹脂滑剤、繊維油剤、潤滑油、紙含浸油可塑剤、離形剤、顔料分散剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分外
	自然発火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外
	皮膚感作性	区分外
	生殖毒性	区分外
環境に対する有害性	水性環境慢性有害性	区分4

※「対象外」・「分類できない」の項目は記載省略

ラベル要素

絵表示又はシンボル：該当しない
注意喚起語：該当しない
危険有害性情報：長期継続的影響により水生生物に有害のおそれ
注意書き：
【安全対策】環境への放出を避けること。
【応急措置】該当しない
【保管】該当しない
【廃棄】内容物や容器を廃棄する場合は、関連法規および地方自治体の基準に従って廃棄すること。
その他の危険有害性情報：特記事項なし

3. 組成、成分情報

単一成分・混合物の区別： 単一成分
化学物質
化学名又は一般名： 流動パラフィン
別名： White Mineral Oil、 Liquid Paraffin
分子式(分子量)： C_nH_{2n+2}
化学特性
(化学式又は構造式)：
CAS番号： 8042-47-5
官報公示整理番号：
化審法 9-1692
安衛法

4. 応急措置

吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合： 多量の水と石けんで洗うこと。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合： 医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合： 直ちに医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。

予想される急性症状及び
遅発性症状： 飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。
ミストを吸入すると気分が悪くなることもある。
遅発性症状のため、少なくとも48時間は医師の観察下におくこと。

5. 火災時の措置

消火剤： 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂。

使ってはならない消火剤： 棒状放水を用いてはならない。

特定の危険有害性： 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
激しく加熱すると燃焼する。
火災時に一酸化炭素等の毒性ガスを発生するおそれがある。

特定の消火方法： 消火作業は風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。
関係者以外は、安全な場所に退去させる。

消火をおこなう者の保護： 消火作業では適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

その他の予防措置

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	作業の際には適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。 関係者以外の立入りを禁止する。
環境に対する注意事項：	屋内の場合は立入る前から処理が終わるまで十分に換気を行う。 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
回収、中和、封じ込め及び浄	少量の場合は、土砂、ウエス等に吸収させて空容器に回収し、その後完全にウエス等で拭き取る。 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから流出物をすくい取るか、又は適当な吸収剤を使用して回収する。
二次災害の防止策：	付近の着火源となるものを速やかに取り除く。 関係先に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：	発散したミストを吸い込まないようにする。 適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
局所排気・全体換気：	取り扱いには換気の良い場所で行い、できるだけ局所排気または全体換気装置を使用する。
注意事項：	みだりにミストが発生しないように取り扱う。
安全取扱い注意事項：	特記事項なし

保管

技術的対策：	消防法の規定に従うこと。 施錠して保管すること。
保管条件：	直射日光を避け、暗所にて保管する。
混触危険物質：	強酸化剤。
容器包装材料：	金属又はガラス容器を使用すること。樹脂容器は種類により溶解することがある。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：	設定されていない。
許容濃度 (暴露限界値または生物学的暴露指標)：	
日本産業衛生学会 (2014年版)	3 mg/m ³ (鉱油ミストとして)
ACGIH (2013年版)	TWA 5.0 mg/m ³ (鉱油ミストとして)
設備対策	ミストが発生する場合は局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具：	ミストが発生する場合は防毒マスク(有機ガス用)を着用すること。
手の保護具：	保護手袋を着用すること。
眼の保護具：	保護眼鏡(普通眼鏡型、ゴーグル等)を着用すること。
皮膚及び身体の保護具：	保護服(長袖作業衣等)を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状：	粘性を有する液体
色：	無色澄明
臭い：	無臭
pH：	該当しない
融点・凝固点：	-21℃（流動点）
沸点：	>230℃
引火点：	220℃以上 (ASTM D92)
自然発火温度：	データなし
燃焼性 (固体、ガス)：	該当しない
爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	< 0.1 kPa (20℃)
蒸気密度：	データなし
蒸発速度：	データなし
比重：	0.860-0.890 (20℃/20℃)
溶解度：	水：不溶 有機溶媒：可溶
オクタノール／水分配係数：	log P >6 (脂溶性)
分解温度：	データなし
臭いのしきい値：	データなし
粘度：	37.0 mm ² /s以上 (40℃)

10. 安定性及び反応性

安定性：	通常取り扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性：	強酸化剤と反応する可能性がある。
避けるべき条件：	直射日光、高熱、火災・火花等の着火源を避ける。
混触危険物質：	強酸化剤との接触を避ける。
危険有害な分解生成物：	燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素や微量の炭素化合物、煤が生じる。

11. 有害性情報

急性毒性：	
経口	ラット 経口 LD ₅₀ > 5,000 mg/kg (IUCLID, 2000) GHS分類：区分外
経皮	動物試験データなし。 GHS分類：試験データがないため「分類できない」。
吸入	(ミスト) LC ₅₀ > 2.46 mg/L (ただし、動物種・暴露時間が不明；US GHS分類：データ詳細が不明なため「分類できない」。
皮膚腐食性・刺激性：	ウサギ 非希釈液 24時間Draize試験：皮膚刺激性なし (IUCLID, 2000) GHS分類：区分外
眼に対する重篤な損傷	ウサギ(4匹) Draize試験：眼刺激性なし (IUCLID, 2000)
呼吸器感作性又は	呼吸器感作性：データなし
皮膚感作性：	皮膚感作性：モルモット maximization試験：感作性なし (IUCLID, GHS分類：区分外
生殖細胞変異原性：	<i>in vitro</i> マウスL5178Y細胞forward mutation試験：陰性 (IUCLID, GHS分類： <i>in vivo</i> 試験のデータがないため「分類できない」。

発がん性： マウス 経皮発がん性試験：発がん性なし (IUCLID, 2000)
 GHS分類：腹腔内投与による発がん性の判断が困難なため「分類でき
 生殖毒性： 雌雄ラット一世代試験：生殖指標への有害影響なし、仔動物への影響な
 GHS分類：各種試験において、高用量でも影響が認められていない
 特定標的臓器・全身毒性
 (単回暴露)： データなし
 特定標的臓器・全身毒性 ラット 反復経口投与試験：低粘度品で肝臓、腸間膜リンパ節への影響
 GHS分類：経口投与試験における被験物質の粘度が不明なため、GHS
 「オイルの吸引により脂質性肺炎や脂質性肉芽腫を生じる可能性があ
 吸引性呼吸器有害性： GHS分類：判定基準に明確に合致または否定する情報が得られていな

1 2 .環境影響情報

生態毒性：急性有害性 魚類以外のデータなし。
 GHS分類：魚類、甲殻類、藻類ともに「分類できない」なので、急性
 魚類 *Lepomis macrochirus* 96時間LC₅₀ > 10,000 mg/L (IUCLID,2000)
 GHS分類：得られているデータは水溶解度以上での試験データである
 甲殻類 データなし
 藻類 データなし
 生態毒性：慢性有害性 データなし
 GHS分類：魚類、甲殻類、藻類ともにデータはないが、本製品の物性
 残留性・分解性： 難分解性 (IUCLID,2000))
 生体蓄積性： 推定log P：>6 (IUCLID,2000))

1 3 .廃棄上の注意

残余廃棄物： 残余廃棄物は、関連法規および地方自治体の基準に従って廃棄するこ
 と。
 廃棄を委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理
 業者に委託処理すること。この場合、危険性、有害性を十分告知するこ
 と。
 汚染容器及び包装： 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規および地方自治体の基準
 に従って適切な処分を行うこと。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分すること。
 廃棄を委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理
 業者に委託処理すること。この場合、危険性、有害性を十分告知するこ
 と。

1 4 .輸送上の注意

国際規制
 海上規制情報 該当しない
 航空規制情報 該当しない
 国内規制
 陸上規制情報 消防法：危険物
 海上規制情報 船舶安全法：非危険物 (個別運送及びばら積み運送において)
 航空規制情報 航空法：非危険物
 特別の安全対策 漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなうこと。

1 5 .適用法令

労働安全衛生法：	該当しない (本製品は鉱油に分類されるが、高度に精製されたものである)
毒劇法：	該当しない
化学物質排出把握管理促進	該当しない
消防法：	危険物 第四類 第四石油類 (非水溶性)
水質汚濁防止法：	排水基準：該当する
海洋汚染防止法：	有害液体物質(Y類)
廃棄物の処理及び清掃に	産業廃棄物規制(拡散、排出の禁止)
関する法律：	
食品衛生法：	食品添加物公定書の流動パラフィン使用基準により、パン生地分割及び離型の目的以外に使用してはならない。

1 6 .その他の情報

参考文献	SONNEBORN-SDS (2015/05/29) NITE CHRIP (Chemical Risk Information Platform) 日本産業衛生学会 許容濃度の勧告値(2014) US HPVIS (2011) ICSC (2006) IUCLID (2000) IARC (1998), IARC (1984) ACGIH (2013)
------	---

記載内容については、現時点での資料や情報に基づいて作成されたものであり、記載のデータや評価に関しては情報の完全さ、正確さを保証するものではないことをご了承ください。
すべての化学製品には、未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。
ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださいますようお願いいたします。
尚、製品の詳しい説明、又ご不明の点などありましたら、弊社担当者にご連絡ください。